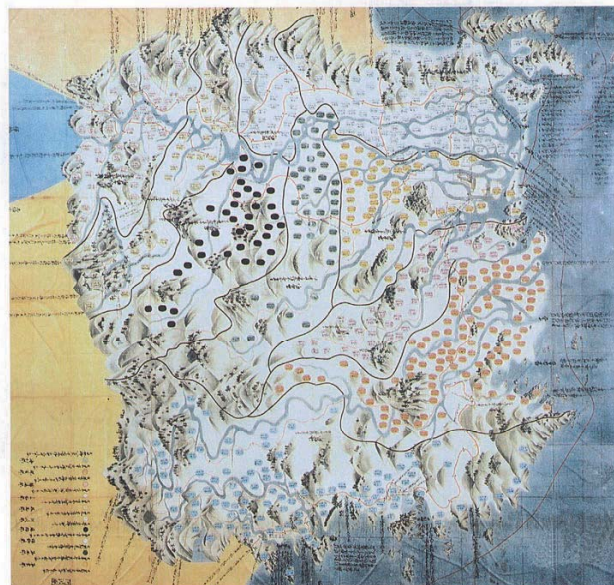
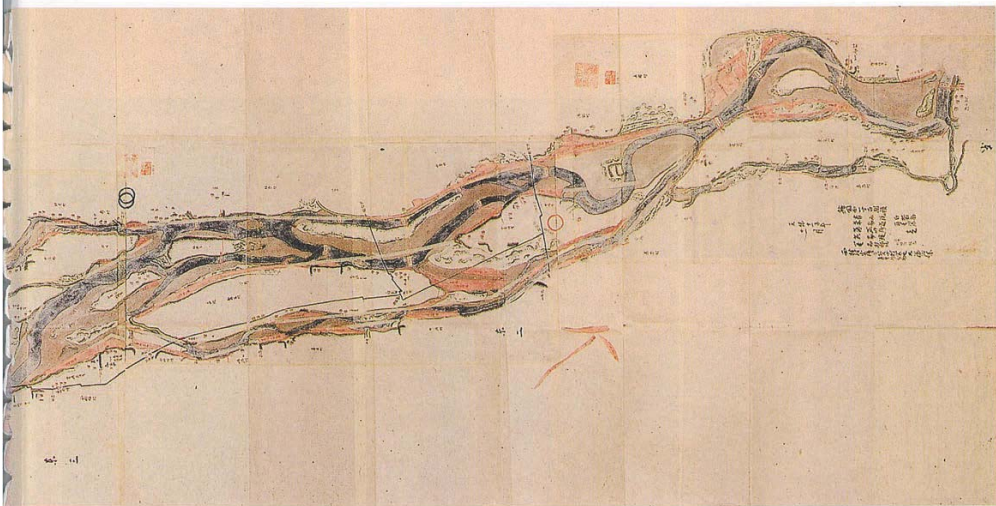


工師 デ・レーケ
吉野川検査復命書
YOSHINOAWA
EXAMINATION
REPORT

Johannis De Rijke



阿波淡路両国絵図の阿波国

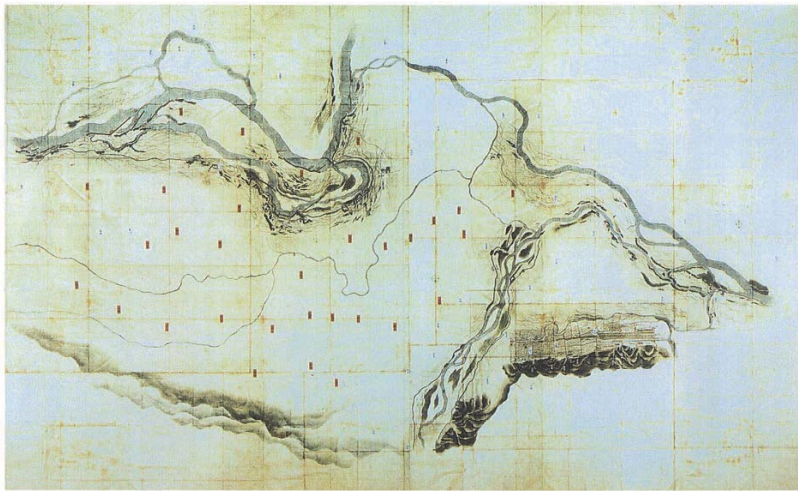
江戸時代初期の国絵図で、阿波の村名と石高の記載がある。
郡ごとに色分けされ郡界が黒線、街道が朱記されている。

〔国立史料館蔵：275cm×200cm〕



徳島県東部上空より見た吉野川と四国の北半分

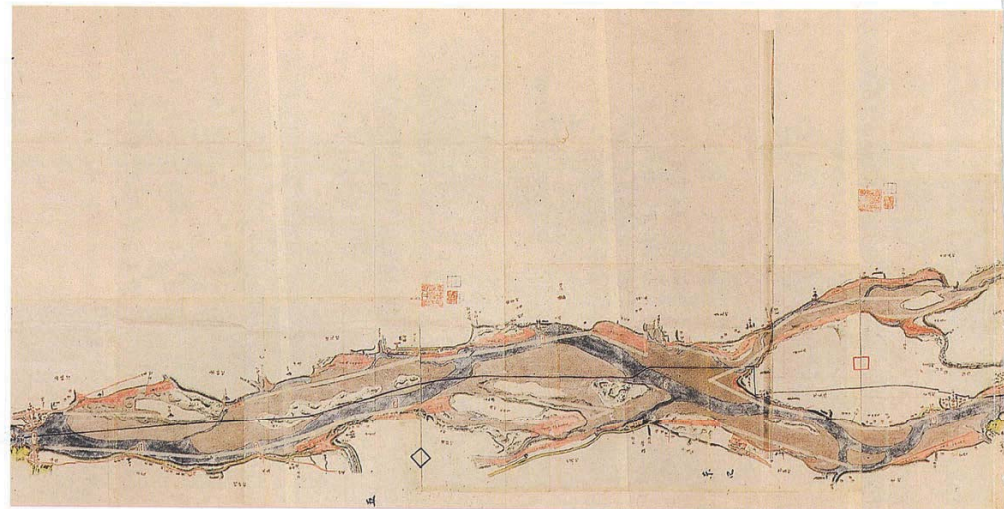
(人工衛星からの宇宙写真をコンピュータ処理によって作成)



村々沼川堰留之図

吉野川及び鮎喰川下流の絵図で、中央上部あたりが現在の第十堰付近右下の川が鮎喰川、その下の山地は眉山。江戸時代のもので年代不詳

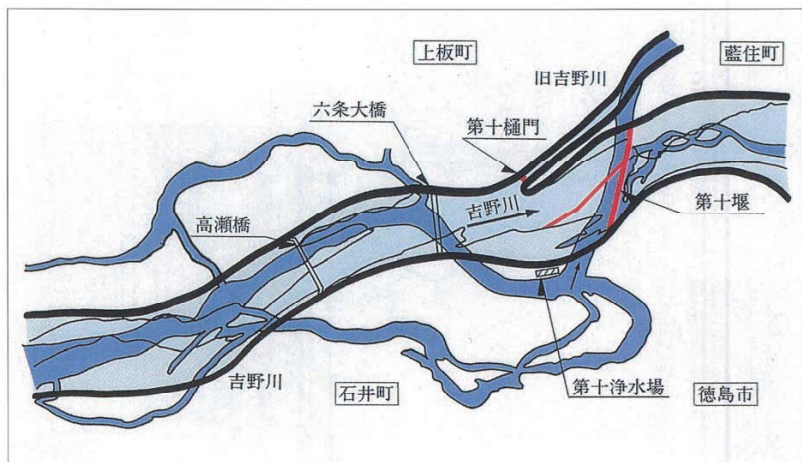
〔国立史料館；228cm×376cm〕



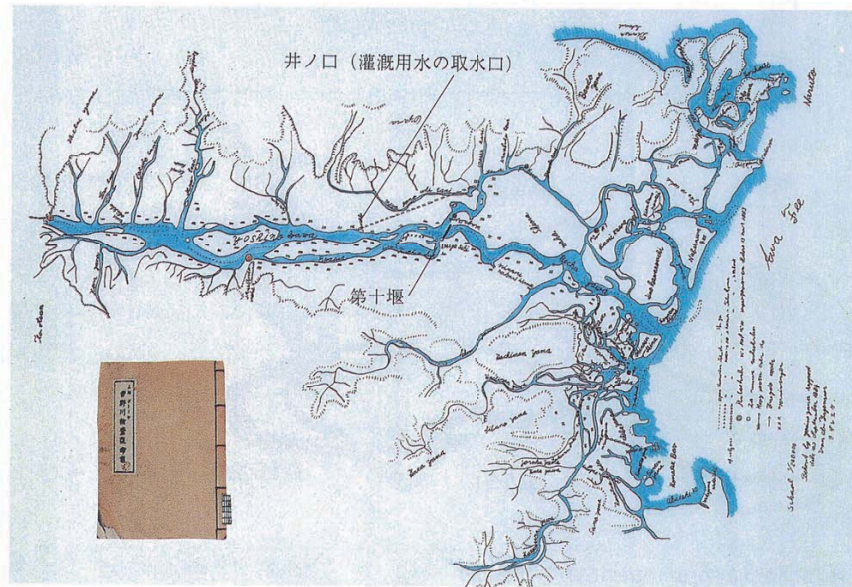
吉野川絵図

岩津から第十までを描いたもの。(天保11年11月)

〔徳島県立図書館蔵；87cm×335cm〕



「村々沼川堰留之図」と「現在の吉野川」の重ね図

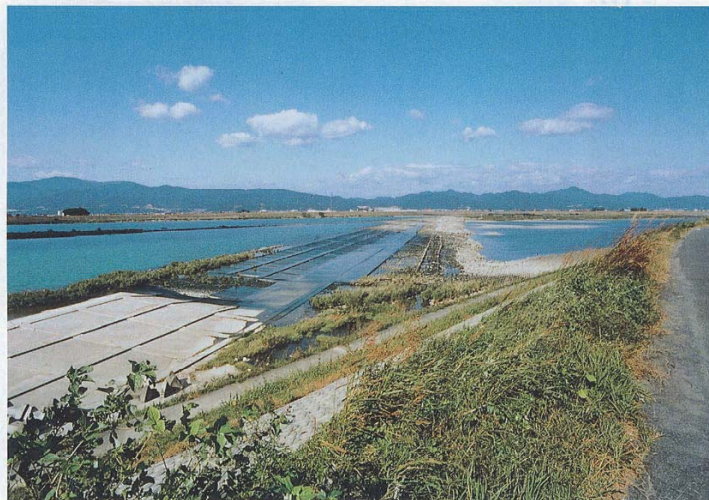


デ・レーケの『吉野川検査復命書』と同書の付図。

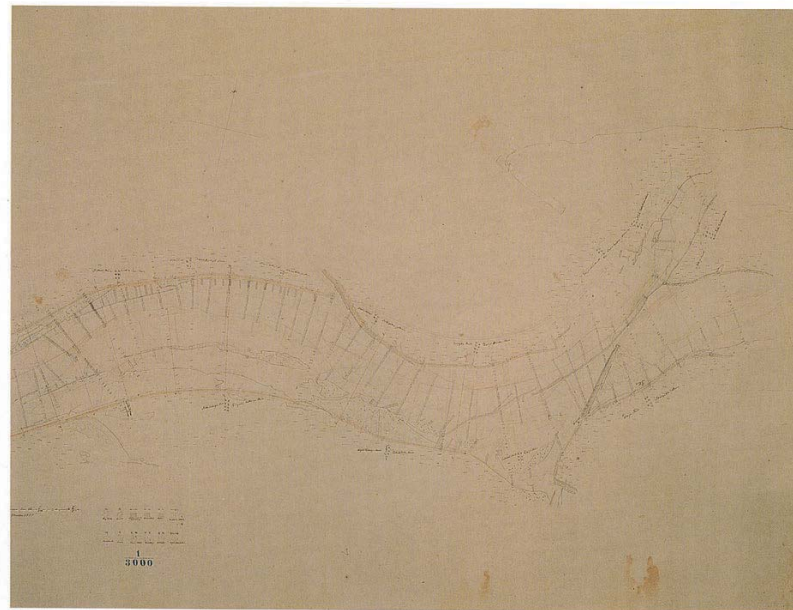
本文P3の「岩津村より下流の吉野川の略図一葉」がこれにあたる。



明治40年頃の第十堰 『東宮行啓記念写真帖』(明治41年発行)より



現在の第十堰

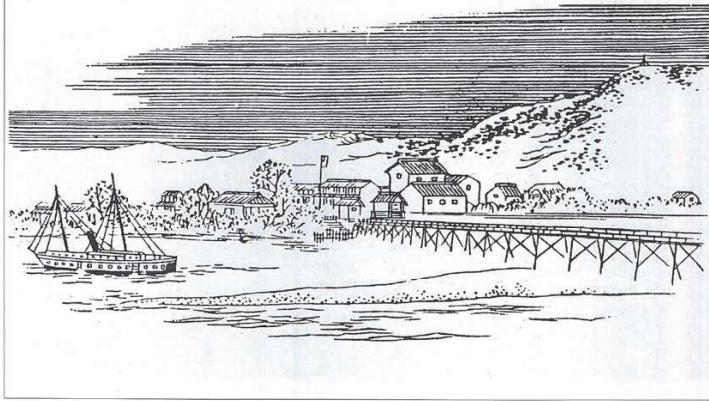


明治21年吉野川第十堰付近実測平面図(原図 1/3,000)



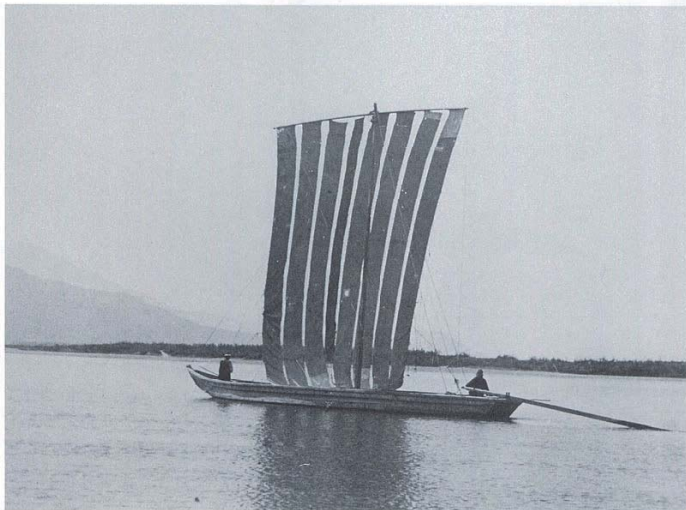
吉野川第十堰周辺航空写真

古川港



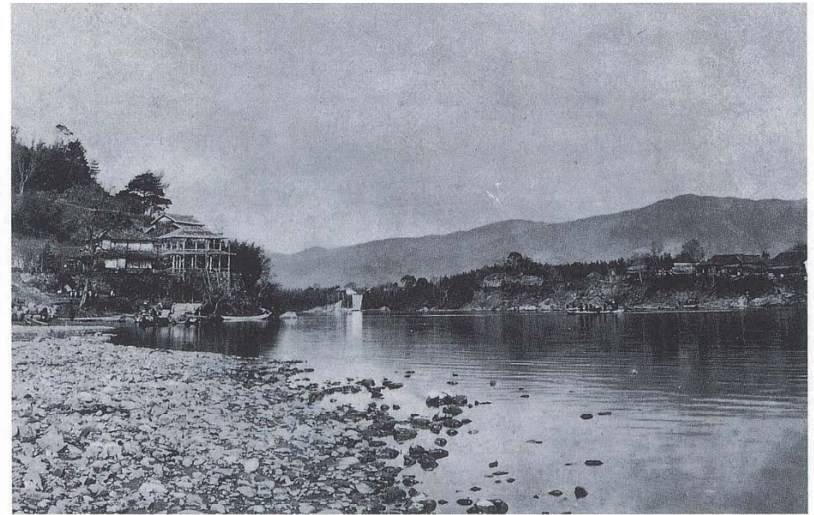
古川港

『小学阿波国地誌』（明治25年版）所載の図。港は当時の徳島市の積出港。橋は木橋で、現在の吉野川橋上流約300mにあった。



平田舟

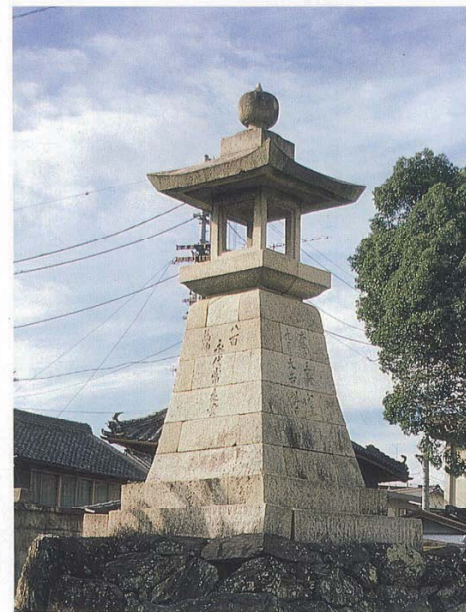
八反帆に吉野川の風をはらんで航行する平田船。昭和初期のころ。
〔島田忠一氏撮影 喜多弘氏提供〕



岩津風景

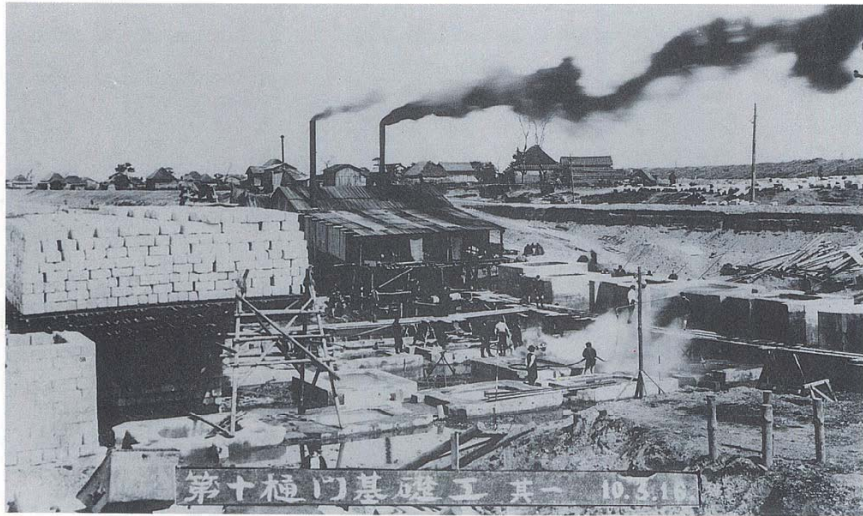
岩津は池田・徳島間のほぼ中間にある河港。川幅が最も狭く、監視に最適の場所であったので、藩政時代には通行税を取り立てる御分一所があった。

『東宮行啓記念写真帖』（明治41年発行）より



岩津の石灯籠

川船運行の便宜をはかり建てられた。灯台用。



第一期吉野川改修工事の様子

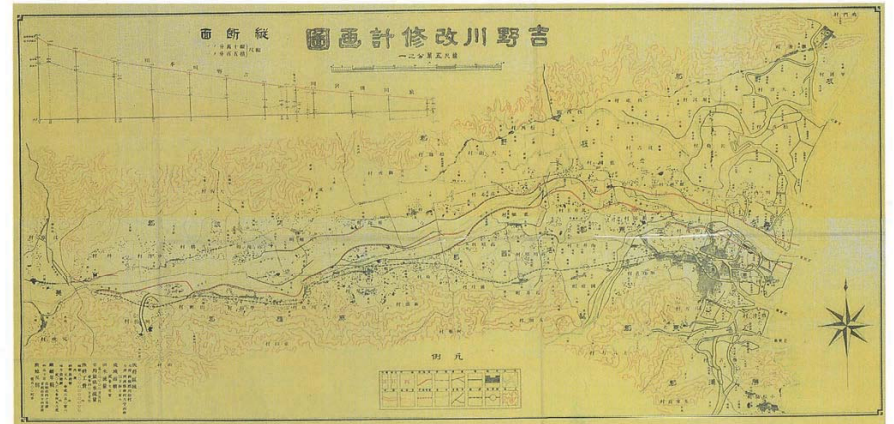
第十樋門基礎工事中の写真で樋門上流から撮影。



善入寺島

第一期改修により当時3,000人、500戸の家屋移転を伴い遊水池を図った。

〔川島町史より〕



吉野川改修計画図

明治34年吉野川第一期改修計画樹立のための実測図。(原図 1/50,000)



デ・レーケ堰

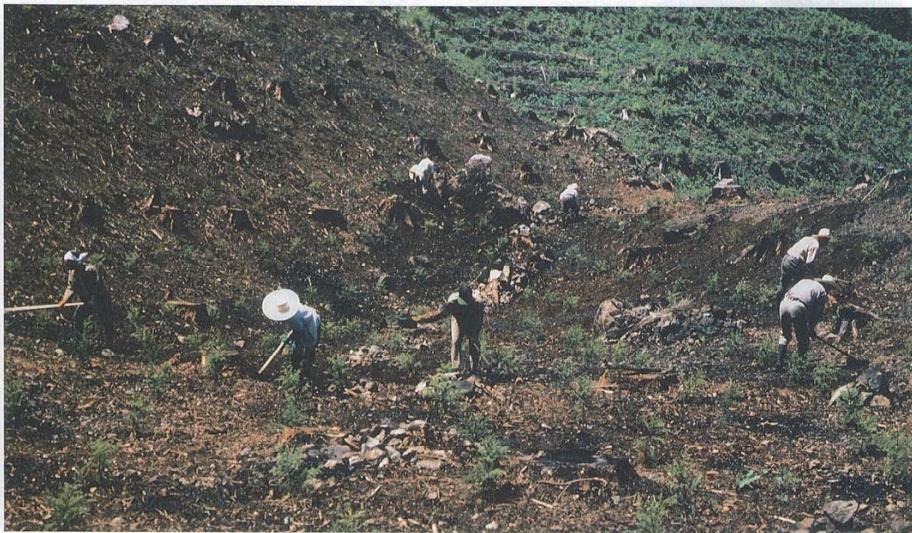
脇町役場近くの大谷河床にあり、デ・レーケの提言によるものといわれる。
最近整備された。



切畑の風景(1)

山腹の雑木林を切り開いて焼き、そこを畑として数年間利用し、土地がやせてくると、耕作をやめて再び山林にかえす。写真は木頭村岩倉付近。

〔谷内清孝氏提供〕



切畑の風景(2)

焼畑あるいは切替畑とも言う。昭和20年代まで県内の山間部ではかなり広範囲に見られ、デ・レーケは河川に害を与えると指摘した。

〔谷内清孝氏提供〕



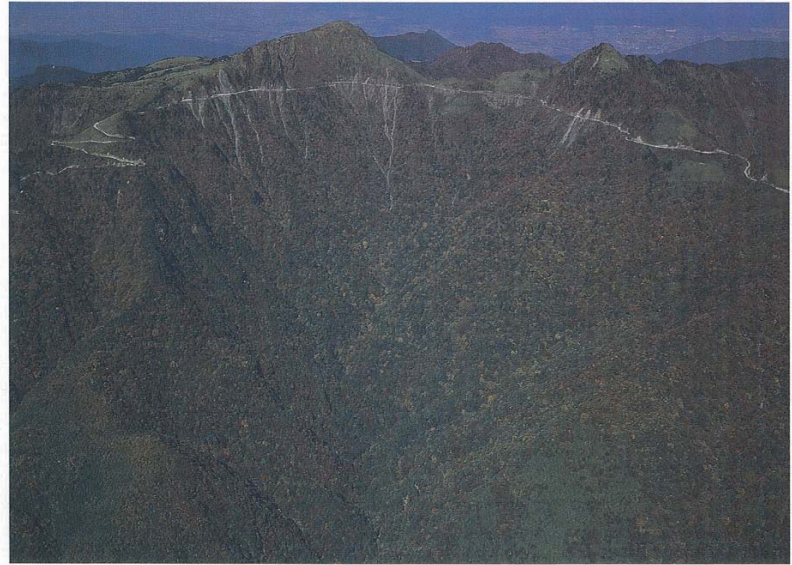
坂東谷川川口（対岸より撮影）

同所の砂州を対岸から撮影。



坂東谷川川口（航空写真）

デ・レーケが指摘したように土砂の流出による砂州が見られる。



吉野川の源流部

高知・愛媛県境の瓶ヶ森（1896m）の南斜面が源流部にあたる。南方上空より。



吉野川河口付近の航空写真

河口東方より見た状況。（平成7年）